



るんだぞ」と話すことが必要だと思うんですね。大切なのは、凄いことはできないといいから、子どもたちが憧れるような大人の姿を先生と親が見せているかどうかです。

市長…生涯学習の充実を考えると、生き抜く力は大人にも必要です。大人も学び続けないうと。退職された人にアドバイザーとして学校に入ってもらうのも有効です。

牛丸…そうですね。多久市は早い時期からアクティブ・ラーニング※²を取り入れ、小学校・中学校が別物じゃなくて繋

がっているんだぞという意識でスタートされていて、非常に先進的だと思います。ただ、課題はそれを教えている先生がどれだけ自覚をしているのかということですね。加えて保護者のサポートが必要です。

授業のなかだけで対話を訴えるのではなく、家庭や普段の生活の中で、そういう対話を子ども達ともっともってしていくことだと思えます。児童・生徒だけを変えようとするのではなく、親と先生が変わることです。

ぜひ、学校開放デーには、多くの人来ていただき、現場を見て、言いたいことを言っ

ていただきたいです。それが盛り上がったら、正に「文教の里」になると思います。そういう市になったらすごく素晴らしいですね。

アートを生かしたまちづくり

牛丸…新たな図書館構想がありますね。アーティストは目立ちたがり屋なので、図書館に展示する作品の募集を呼びかけてみてください。たくさん集まると思います。

市長…考えていましたよ（笑）。ほかに、空いている教室をアトリエとして貸す代わりに年に数回、季節の展覧会をしてもらえば、人が集うイベントになる等のアイデアも。

牛丸…ぜひ！お願いします。ある海外の友人から、多久駅には多久のお土産を買えるところがないと言われました。

そこで、多久駅に市内の物産やアート作品が買えるブースがあつたらいいと思うのですが。

市長…お土産はここに「アート」ってね。

牛丸…はい。お土産以外にも多久に行けばあのアーティストの作品が買えるところが「あーとよー」って（笑）。

市長…もちろん、そうですね。せっかく多久まで来ていただいているならウォールアートを見てほしいですね。そこをキーソリューションにして、たくさん作品を見て回ってもらい、その帰りに、好きな作品をお土産に買う、そんな感じがいいですね。

牛丸…多久駅の前からちよつと入ったら、レトロな雰囲気タイムスリップしたらいいですね。ほかにアートのみち多久を宣伝するために、行き

※²…アクティブ・ラーニング

生徒が課題を解決する力を養うために仲間と議論やグループワークなどを行うこと。